

# 市民のひろば ~震災の記憶を後世に~

今月号は、市内フランス料理店のオーナーシェフである萩春朋さんに、震災時の状況や復興に向けた取り組みなどについて、インタビューした内容をお伝えします。

## レポート②11



萩春朋さん (Hagi フランス料理店 オーナーシェフ)

市民のひろば

Q 地震発生時はどこで何をされましたか。  
店の昼の営業を終えて、妻と二人で、夜の食材の調達も兼ね、いわき駅前周辺を訪れ、飲食店で食事をしている時でした。

揺れが収まってからは、とにかく、当時小学一年生だった娘のことが心配で、内郷の自宅兼店舗に急いで車を走らせました。その後、自宅近くで下校途中の娘を発見し、けがもなく無事だったので、安心しました。また、自宅も店舗も大きな被害はありませんでした。

Q 震災翌日からどのような生活をされていましたか。  
原発事故に対する不安や、生活物資の不足などもあり、市外への避難を考えました。

しかし、避難先への移動や避難先での生活にも不安があったため、市

外への避難はせずに、家族三人、自宅にとどまりました。  
Q お店を再開した当時の状況はいかがでしたか。  
水道が復旧した後の四月中旬に、店を再開しましたが、予想していたとおり、お客様の数は激減し、とても暇な状況が続きました。

さらに、流通が停滞し食材が手に入りにくかったため、毎日時間をかけて自分の足で生産現場を回り、食材を調達していました。このことで、生産者の皆さんと親密な関係が生まれ、野菜の栽培方法や食べ方など、多くのことを学ぶことができました。

また、首都圏からのバスツアーで、収穫体験後の調理を手伝った際には、参加した皆さんがそのおいしさに驚いているのを見て、地元の採れた野菜のおいしさや、素材の持つエネルギーを強く感じました。まさに



地元生産者「ファーム白石」の白石さんと畑で談笑する萩さん

「食」の最先端は、生産現場にあると感じた瞬間でもありました。  
Q その後、お店で提供する料理にも変化があったのですか。  
地元の食材を生かした料理を提供することが、地元レストランの意義であると感じ、地元食材に特化した料理を提供していくことにしました。また、原発事故の風評により、地元野菜などの価値が下がるのを食い止めたいとの思いから、さまざまな催しや取り組みなどにも参加させていたと思っています。

Q 今後の目標をお聞かせください。  
地元食材の使用について、共感してくれる料理人も増えていきます。今後も、生産者と消費者をつなぎ、いずれば、いわきの「食」を日本一にしたいと思っています。



第5回いわき昔野菜フェスティバル (1月28日) で提供された萩さんの料理

## 災害といわき

其の十一

### 災害と救助・鎮魂

間もなく東日本大震災から四年目を迎えます。そこで今回は、江戸時代のいわきの人たちが、災害に際して、どのような対応をしていたかについて、みていきます。

元禄九(一六九六)年六月二十七日は、朝から晴天で、いわきの浜々では多くの漁船が出漁していました。未之中刻(午後二時ごろ)から、にわか高波となり、そのために、漁船は港に戻ろうにも戻れず、沖にて一夜を過ごしていたところ、翌二十八日の巳之刻(午前九時ごろ)から、大雨と東風が強くなり、時化となっていました。高波と暴風雨の結果、破船(難破)した船が多くでてしまい、乗っていた水主(漁師)にも多くの犠牲者が出ました。

当時、いわきを治めていた磐城平藩内藤家の史料によると、この災害による被害は、破船百七十二艘、亡くなった水主は二千二百五十一人、怪我人多数、という大惨事となりました。被害の大きさは、江戸にも伝わり、記録されたほどの事件となりました。

磐城平藩は、災害の直後から被害のあった浦々に、藩士を派遣して救助活動を行っています。具体的には小名浜、中之作、薄磯、沼ノ内に赤須玄随、渡部意碩、四倉より久之浜までに松下養元、内田忠三、関田方面に片寄宗哲、片寄升流たちを「怪我致候者多有之由二付療治として」(海難事故で怪我をした

ものが多くいるので治療として) 遣わしています。彼らは、名前や怪我人の治療に当たっていることからみて、磐城平藩の医師たちだと思われます。また災害の後、犠牲者を悼む鎮魂についても藩は関わっています。翌月の七月二日には、今回の海難事故の犠牲者のために「浦々寺院に於て施餓鬼仰付らる」(沿岸にある寺院は犠牲者のために施餓鬼を行うように)として、小名浜や四倉など被害のあった浦々で施餓鬼を行う寺院を複数指名しています。さらに、沿岸以外においても「御領内静謐之為メ八幡、稲荷、薬王寺、其外御領内七社ニ於て御祈禱仰付らる」(御領内が穏やかになるよう、飯野八幡宮、子鎌倉神社、薬王寺、そのほか御領内の七社にも祈禱を行うように)と、飯野八幡宮などいわきを代表する寺社に祈禱を命じています。先の東日本大震災の時にも、被害にあった方々への救助は何よりも優先されました。また、亡くなった方々への慰霊は大に行われ、災害に際しての対応は、江戸時代も現在も同じであることが、この元禄九年の災害からも分かります。(いわき市文化財保護審議会委員・渡辺文久)



祈禱が行われた飯野八幡宮

### 2月16日(月)の市役所本庁舎、各支所・市民サービスセンターでの放射線量測定値

庁舎・支所	平(本庁)	小名浜	勿来	常磐	内郷	四倉	遠野	小川	好間	三和	田人	川前	久之浜・大久
地上1m	0.107	0.037	0.043	0.060	0.048	0.054	0.056	0.058	0.055	0.066	0.069	0.069	0.128
市民サービスセンター	中央台	豊間	泉	測定時刻: 10時									
地上1m	0.076	0.116	0.058	単位: マイクロシーベルト/時									
				出典: 原子力規制委員会ホームページより									

※過去における測定値、平成22年度の市内の状況については、0.04~0.07マイクロシーベルト/時で推移していました。(福島県ホームページより)

水道水の放射性物質の測定結果 水道局では、市内全12浄水場の水道水を週3回(遠野地区の3浄水場は週1回)検査しています。現在の検査結果は、放射性ヨウ素・放射性セシウムとも、全て不検出(1ペクレル/kg未満)であり、安心して飲んでいただけます。

放射線に関する問い合わせ窓口(県設置窓口) ☎0120-988-359 平日: 8時30分~18時30分 土日祝: 8時30分~16時